

古民家再生のススメ

再生から暮らしまで セルフビルダーと座談会

■古民家再生のススメとは？

街中から一歩外に出ると広がる風景。

畑、田んぼ、びわ湖、山。道を走ると、その傍には小さな集落がポツリポツリといつつもあります。高齢化、過疎、人口流出により、高島市では建物のあよそ 1/5 が「空き家」といわれています。一方で、田舎暮らしブームや自然に向むかう高まりもあり、田園風景や自給自足に憧れて都会から田舎へ、集落への移住を希望する人も近年増加しています。

古民家や在来工法による建築の文化的・審美的価値が見直されつつある折、中でも「古民家再生」は田舎暮らしの象徴的なジャンルとして受け入れられつつあります。が、実際はどうなのか？予算は？労力は？どれくらいの、何が必要なのか？実態が分かりにくいジャンルでもあります。

本企画では、自力で古民家再生に取り組む出展者・スタッフの事例紹介を中心に、自力で古民家再生に取り組む面白さや苦労、周囲との関わり方等をオープンにして「古民家再生」にまつわるアレコレを時間いっぱい語り合います。

やったら意外とできるんです！古民家に住むことの面白さを発見し、大から小まで住まいをカスタマイズする楽しみを、身近に感じてみて下さい。

古民家再生、してみませんか！！

■登場者

高島に移住して、自力で古民家再生に取り組む3軒5人。



高村 洋司・小松 明美

10年前にマキノ町下開田の古民家をネット情報で発見・即決購入して7年がかりで現在の形に。古民家再生は高村が23年前に大津市葛川の古家の一角を改修して住んだのが始まり。土壁は小松が全てを担当、壁を見るだけで土の量が分かるのだとか。



平井 崇・ワダマキ

高島に惚れ込み、大阪より夫婦で移住して針江浜（新旭町）→安曇川の新興住宅→日置前（今津）の古民家、と転々しながら、現在は安曇川町中野の古民家を改修中。畠を耕し、平井は林業を、ワダマキはアクセサリー作家を休業して、現在は雪が降る前に屋根と壁を仕上げることが急務。



岡野 史子

昨年陶芸の工房を独立する際に、今津町にある古民家を半ば衝動買いして今春大津市から高島に移住。現在陶芸家の卵として活動しつつ、アルバイトの日々を送る。一日一本釘打つことを目標に、現場に棲みつき改修中。

お問い合わせ：風と土の交藝プロジェクトチーム（担当：岡野）

〒520-1622 箕面県高島市今津町中沼 1-4-1 たかしま市民協働交流センター

Mail: webmaster@ekkc.takashima-shiga.jp Tel: 0740-20-5758 Fax: 0740-20-5757